

利渉重雄《酔う触手》1
エッチング、アクアチント 62.7×

予 告

横浜市民ギャラリーコレクション展2022 モノクローム—版画と写真を中心に

横浜市民ギャラリーの約1,300点の所蔵作品は、1964年の開館以来、企画展や国際展等を機に収蔵され、戦後から90年代初頭までの国内の美術史や横浜の美術シーンを反映しています。本年は、モノクローム—単色で表された、版画と写真を中心に展覧します。

版画は、技法の探求や材料の選択、描かれた図像等の要素が重なり合って多様な表現を生み出します。さらに単色で摺られることで、線や面が繊りな豊かなイメージが観る者の目をより惹き付けます。また写真は、光と影によって構成される平面のイメージへと被写体に変換されることで、対象の気づかぬ一面が表れ、自らの認識を新たにするような視覚体験を導くことがあります。本展は、4つの章「線とかたち」「光と闇」「人のいる風景」「イメージネーション」と特集展示「浜口タカシ〈北海に生きる〉より」で構成し、モノクロームの抑制された色彩が生む表現の多様さや豊かさを紹介します。

※会場内では本展にあわせて収録した北川健次のインタビューを上映します。

横浜市民ギャラリーコレクション展2022 モノクローム—版画と写真を中心に
2022年2月25日(金)～3月13日(日) 10:00～18:00(入場は17:30まで)
横浜市民ギャラリー展示室1、B1 入場無料、会期中無休
主催：横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社 共同事業体）



高松次郎「青の線と面」1983年 ガッシュ、紙 46.6×64.8cm



宮井里夏「Untitled 91-10」1991年 エッチング、アクアデント 89.0×142.5cm



土田ヒロミ「砂を数える」1981年 セラチンシルバープリント 28.8×42.7cm

●特集展示 浜口タカシ〈北海に生きる〉より
報道写真家・浜口タカシ（1931-2018）が1981年、当館の個展で発表したシリーズ〈北海に生きる〉から、極寒の北海道の風景やそこで漁をして生きる人々をモノクロームで写した作品をご紹介します。



浜口タカシ「増毛港に打ち寄せる高波」1976年 セラチンシルバープリント 90.0×149.9cm

【関連イベント】

●ワークショップ「凸凹で刷る版画・コラグラフ」
2月26日(土)13:30～16:00
身近な素材をコラージュして版をつくり、足踏みで刷る紙版画を制作します。
会場：4階アトリエ
講師：関 淳一（版画家）
対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）
定員：15名（抽選）
参加費：1,500円
申込締切：2月13日（日）必着
事前申込制（詳細は当館ホームページをご確認ください）

●鑑賞サポーターによるトーク
3月6日（日）、12日（土）14:00～（予定）
ボランティアメンバーが出品作品の魅力についてお話しします。
会場：展示室1、B1
参加無料、申込不要

●ハマキッズ・アートクラブ
「横浜市民ギャラリー—まるごと探検ツアー—」
3月12日（土）10:30～11:30
コレクション展会場や、作品収蔵庫などバックヤードをめぐるります。
講師：河上祐子（当館学芸員／エデュケーター）
対象：小学3～6年生
定員：8名（抽選）
参加費：500円
申込締切：2月25日（金）必着
事前申込制（詳細は当館ホームページをご確認ください）

※新型コロナウイルス感染拡大状況等により、展覧会および関連イベントに変更が生じる場合があります。ご来場前に必ず当館ホームページまたは電話で、最新の情報をご確認ください。

横浜市民ギャラリーゆかりの作家たち vol.23 北川健次

北川健次さんは1952年福井県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。版画、オブジェ、写真作品の制作、詩やエッセイ、美術評論の執筆等、多岐に渡る活動をしています。北川さんの作品に登場する要素の1つに「引用」があります。古写真や古道具等を用いるほか、古今東西の文学や哲学書からテキストを取入れた制作をおこなっています。引用された事柄は、既にある文脈の中で意味を持っていたが、本来の場所から切り離され、新たな関係性のもと眼前にあらわれることで、鑑賞者を様々な思索に誘います。本作はフランツ・カフカ（1883～1924）の少年期の写真をモチーフとした作品です。カフカは大学卒業後、役人として勤務しながら執筆し、生前は短編を発表するに留まりました。しかし病による早世後に、友人の作家が遺稿を長編に再編し出版すると、シュルレアリスムや実存主義の先駆的な文学として注目され、20世紀を代表する作家となりました。やはり引用されたオウムと共に、グリッド線が引かれた平面上に採取されたかのように並ぶ少年のカフカは、誇らしげにポーズをとっています。タイトルのカフカの名と、その年齢を想起させる情報が、作品に對峙する我々の想像を拡張させます。

※「横浜市民ギャラリー—コレクション展2022 モノクローム—版画と写真を中心に」では、北川さんの右の作品他が出品されます。また事前収録したインタビュー映像を上映、小冊子にてご紹介します。



北川健次「フランツ・カフカ高等学校初学年時代」1987年 エッチング、アクアデント、フォトグラビュール 38.8×28.1cm 横浜市民ギャラリー蔵

報 告

ハマキッズ・アートクラブ

2021年1～12月

ハマキッズ・アートクラブは、「自分で考え、自分できめ、自分でする」ことを大切に、幼児・児童を対象とする造形講座を実施しています。2021年は感染症対策を行いながら全10講座を無事開催し、155名のみなさんにご参加いただきました。

今年は感染症対策のため、幼児向けの講座をすべて親子で参加する形式としました。子どもたちが「こうしたい!」という思いをかたちにできるよう、保護者の方も一緒に考えサポートしていただきながら制作に取り組みました。また、初めて開催した「横浜市民ギャラリー—まるごと探検ツアー—」では、学芸員とともに収蔵庫などバックヤードの見学やコレクション展の鑑賞を行い、小学校中～高学年の子どもの子どもたちが美術施設のあれこれを体験しました。

講座は感染症の拡大状況に応じて参加人数や内容を調整するなどし、安心してご参加いただける環境を整えて行っています。来年度も子どもたちの成長を応援できるよう、ハマキッズ・アートクラブを継続実施する予定です。みなさまのご参加をお待ちしています!

*2022年4月以降の講座は、3月中旬にチラシやホームページでお知らせします。

- 1 「スチロールアート」1/24 講師：宇田川純子 小学1～3年生：11名
- 2 「紙であそぼう紙でつくろう」2/21 講師：三ツ山一志 年少～年長児と保護者：10組20名
- 3 「横浜市民ギャラリー—まるごと探検ツアー」3/14 講師：河上祐子 小学3～6年生：8名
- 4 「えのぐであそぼう」①4/24 ②5/15 講師：山田佐映子 年少～年長児と保護者：①8組16名、②8組16名
- 5 「アートリンピック スポーツを等身大アートで表現しよう」7/4 講師：LITTLE ARTISTS LEAGUE 小学1～6年生：14名
- 6 「油絵に挑戦!」8/28 講師：東麻奈美 小学4～6年生：17名
- 7 「スチロールで船をつくろう」9/5 講師：川崎和美 年中～年長児と保護者：8組16名
- 8 「ステキなステッキをつくろう」10/16 講師：大竹美佳 年中～年長児と保護者：12組24名
- 9 「森のペンとノートをつくろう」12/12 講師：泉桐子 小学1～3年生：13名



横浜市民ギャラリー—まるごと探検ツアー

アートリンピック スポーツを等身大アートで表現しよう!



スチロールで船をつくろう

ステキなステッキをつくろう

感染症対策について

- アトリエ講座では、みなさんに安心して参加していただけるよう、主に以下のような対策を行っています。ご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。
- 感染症の拡大状況や講座内容に応じて、適切な定員に調整
 - 検温（37.5度以上の発熱や体調不良の場合は参加不可）
 - 講師・参加者・スタッフの手指消毒、マスク着用*、互いの距離確保
 - *幼児の場合は講座内容や年齢によります。
 - 外気を取り入れた会場の換気
 - 材料・道具類の個別用意、消毒
 - ハマキッズ・アートクラブでの保護者の見学中止または人数制限

報 告

大人のための アトリエ講座

クリエイティブな時間を過ごしたい方におすすめの講座

2021年度前期

横浜市民ギャラリーでは、学生からシニア世代まで、幅広い年齢層の方々が、経験を問わずに創作活動やレクチャーを楽しむことができる「大人のためのアトリエ講座」を開講しています。ギャラリー最上階にあるアトリエにて、身近にアートを感じながら、さまざまなクリエイティブ体験がお楽しみいただけます。

2021年度前期は4講座を実施しました。

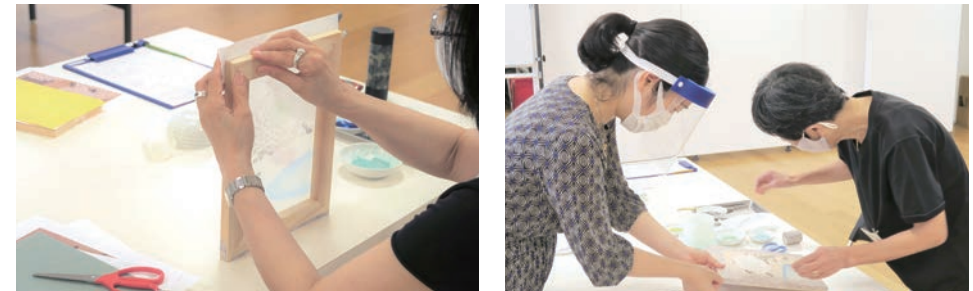
※2022年4月以降の講座は、3月中旬にチラシやホームページでお知らせする予定です。

- 着衣クロッキー
Aコース 2021年4/14,21,28,5/5：16名
Bコース 2021年6/3,10,17,24：16名
- 和の装いを描く
2021年4/30,5/7,14,21：13名
講師：清野晃代（画家）
- はじめての日本画 絹に描く—若冲の彩色に学ぶ—
2021年9/4,11：15名
講師：武田裕子（日本画家）



着衣クロッキー

和の装いを描く（講評会の様子）



はじめての日本画 絹に描く—若冲の彩色に学ぶ—

予 告

横浜市民ギャラリーU35若手芸術家支援事業 関連プログラム

アトリエトーク「絵のはなし」

※締切後、当選の連絡を受けた方が講座に参加できます。
※新型コロナウイルス感染拡大状況により、中止または内容を変更する等して開催場合があります。

横浜市民ギャラリー「U35若手芸術家支援事業」、第一回目の作家であり、日本画の画材を用いながら領域にとらわれない表現に挑戦し続けているアーティストの泉桐子さんを迎え、制作秘話や、現在にいたる活動についてお話をうかがいます。これから横浜市民ギャラリーのご利用をご検討されている方にもおすすめの講座です。



泉 桐子「WE CAN'T GO HOME AGAIN」2020年（横浜市民ギャラリーにて展示風景）

【泉 桐子 いずみ・とうこ】
武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻日本画コース修了。現在、横浜を拠点に国内外で活動。2020年「WE CAN'T GO HOME AGAIN」（横浜市民ギャラリー）。第7・8回日経日本画大賞展入選。2021年「Signals, contemporary Nihonga painting」（Micheko Galerie/ミュンヘン）



報 告

新・今日の作家展2021 日常の輪郭

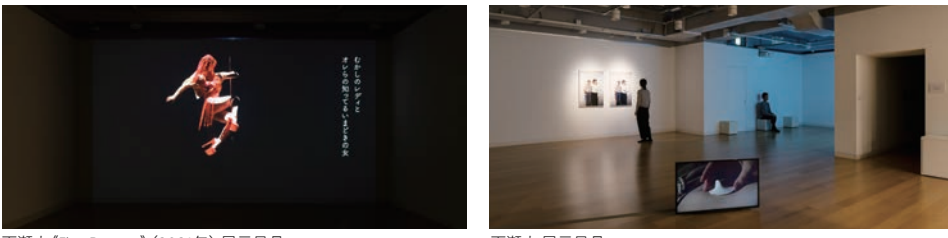
身体をととして“日常”を知る

「新・今日の作家展2021」は、「日常の輪郭」を副題に、写真家の田代一倫さんと映像を主なメディアとする美術家の百瀬文さんの作品により構成し、総点数95点を展示しました。

田代さんは、2011年春から2年にわたり三陸、福島で出会った人々を写した《はまゆりの頃に》、韓国領で日本と韓国との国境付近にある鬱陵島に生活する人々を撮った《ウルルンド》、そして2021年に横浜で撮影した新作による、3つのシリーズ全90点で展示を構成しました。各地を訪ね、出会った人と言葉を交わしながら土地と人を撮影してきた田代さんの写真は、被写体と撮影者それぞれに固有の、日常的流動的な輪郭を提示しました。百瀬さんは、コロナ禍における混沌と女性の身体に対する管理に着目した新作《Flos Pavonis》と、2012年以降に制作されたやはり身体性について思考する映像と写真作品、全5点によって展示を構成しました。百瀬さんのおよそ10年にわたる制作を顧みるような展示は、何気ない日常に様々なレベルで存在する身体性を伴う政治・文化的カテゴリーを浮上させ、その意味を問うような視点をもたらしました。

関連イベントは、田代さんと百瀬さんの対談（展覧会会期前に実施。オンライン公開のみ）、各出品作家とゲストによる対談をおこない、出品作品や作家が向き合っている制作テーマなどについて、理解を深める機会になりました。対談は映像収録し、出品作家インタビューと共に多くの人が視聴できるように、期間限定でオンライン公開しました。また、ミュージアムを中心に手話などの情報保障のあるプログラムを紹介・提供している団体（手話マップ）が主催する、手話と音声日本語で語り合う対話型鑑賞会「シュワー・シュワー・アワーズ」が、本展を鑑賞対象として実施され、手話で話す方や手話を知らない方たちが一緒に展示について対話されました。

今回の展覧会では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、入館時の検温や入場制限、館内の消毒など必要な対策を講じ、来場者が安心して作品を観たり、関連イベントに参加したりすることができる環境づくりを徹底しました。最終日に近づくにつれたくさんの方が来場し、展覧会は盛況のうちに終了しました。



百瀬文「Flos Pavonis」(2021年) 展示風景

photo:Ken KATO



百瀬文「山車を抱く／賞しき文法」(2016年) 展示風景

photo:Ken KATO



田代一倫 展示風景

photo:Ken KATO



田代一倫「ウルルンド」(2017年) 展示風景

photo:Ken KATO

【展覧会データ】
新・今日の作家展2021 日常の輪郭
2021年9月18日（土）～10月10日（日）22日間 10:00～18:00
横浜市民ギャラリー 展示室1・B1
出品点数：95点
観覧券入場者数：4,226名＋関連事業参加者48名＝合計4,274名

【関連イベント】
対談「身体管理／抑圧と欲望の関係について」
百瀬文×清水知子（文化理論家／筑波大学准教授）
9月25日（土）14:00～15:30 会場：4階アトリエ
※オンライン公開期間：10月3日～11月30日

対談「肖像写真とスナップショット」
田代一倫×倉石信乃（写真批評家／明治大学教授）
10月2日（土）13:30～15:00 会場：4階アトリエ
※オンライン公開期間：10月5日～11月30日

対談 田代一倫×百瀬文 ※オンライン公開のみ
収録日：8月5日（木）
※オンライン公開期間：9月18日～10月10日
主催：横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社 共同事業体）

ご利用ください 送迎車サービス

桜木町駅⇄横浜市民ギャラリーを無料で巡回
おからの不自由な方、高齢者に配慮した無料送迎サービスです。
車いすのまま、ご乗車可能です。定員9名と限りはございますが、
※ただしでもご利用いただけます。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により定員減、運休の場合があります。必ず運行状況を事前に確認の上、ご利用ください。
※ご利用の際には、マスクの着用をお願いします。

JR桜木町駅
JR桜木町駅東口タクシー乗り場付近
から出発 ※下記地図をご覧ください。

【送迎車時刻表】 JR桜木町駅発			横浜市民ギャラリー発		
9	45		10	10	30 50
10	00	20 40	11	10	30 50
11	00	20 40	12	10	30 50
12	00	20 40	13	10	30 50
13	00	20 40	14	10	30 50
14	00	20 40	15	10	30 50
15	00	20 40	16	10	30 50
16	00	20 40	17	10	30 45
17	00	20	18	00	

※運行時刻は9時45分桜木町駅始発、18時00分横浜市民ギャラリー最終発です。ただし展覧会初日と最終日や展示室の利用時間によっては、始発・最終発の時刻が変更となり、運休する場合がありますので必ず事前にホームページが電話等で確認ください。※第3月曜日、年末年始は休館日のため運行がありません。また、展覧会のない日も全便運休です。※交通事情、天候、施設状況等により運行が変更になる場合があります。※令和3年10月4日から令和4年3月末まで桜木町駅前交通広場再整備工事が実施されるため、送迎車の乗降場（タクシー降車場の看板が白印）が変更となりますが、基本的には、これまでの場所から大きく移動することはない予定です。工事のため、送迎車ご利用の際は周囲の安全に充分ご注意ください。



横浜市民ギャラリー
〒220-0031横浜市西区宮崎町26-1
TEL 045-315-2828 FAX 045-315-3033 https://ycag.yafjp.org/
10:00～18:00（入場は17:30まで）原則毎月第3月曜日、年末年始休館
f https://facebook.com/ycag1964 t @ycag1964

- 電車
- JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩10分
 - 京急「日ノ出町駅」から徒歩8分
- バス
- 市営バス103-292系統「戸部1丁目」から徒歩2～4分（横浜駅方面から103系統に乗り、戸部1丁目下車すると徒歩2分）
 - 市営バス89系統「野毛坂」から徒歩4分
 - 市営バス8-26-58・101-105-106系統「紅葉坂」から徒歩7分